



平成22年 3月15日

8面	7面	6面	5面	4面	3面	2面
声・古民具・ペンペン草	俳句・短歌・こどもの詩	ひとすぼと	情報	町の埋蔵文化財	みんなで仲良く	平成21年度公民館総括 平成21年度地区協議会総括 まつかわ大学・高齢者講座



まつかわ百景 ③⑨

「ネコヤナギ」 (峠)

春の雪山を背景に銀白色の花穂が美しい。

電子メディアが

子どもから

自然と遊びを奪う

【子ども・遊び・自然】これは切り離すことの出来ない一体のものである。そのフィールドは、「戸外で、太陽、風大地、草木花、そして仲間と群れて活動する。」この中から、人間として社会生活に必要な力を培っていくもの。

(このことは、ことによると若い世代の親には理解出来ない事かも。)

右記の文章は、「絵本のある子育て」からの引用です。

かつて児童の下校時間帯にパトロールしていたときのこと
が思い出された。面白いのは集団下校時
のこと、校庭を出発してしばらくの間は、隊列しつかり。
やがてばらけてくる。ここから子どもらしさが発揮されてくる場面となる。いわゆる道草である。この道草では仲間たちとの会話やいたずらを通して、どれだけの智慧を獲

主張

子どもと自然

得していつたか計り知れないものがある。だが、ときとして苦情が飛び込んでくる。仕方なく現場へとび、事情を伺い謝ってくる。が、心の奥では(大目に見てくれよ・その場で注意してや)と、つぶやいていた。【たんぼの水路に石を入れて水を止めてしまった・竹ノ子をなぎ倒してくれた】といった苦情を受けながら、あいつら楽しかっただろうなという思いであった。

さて今松川町で、子どもと自然の関わりに着目して活動を推し進めているネイチャーキッズの存在は大変心強いものです。また、4月から松川町が指定管理者となり運営していく松川青年の家も、恵まれた自然環境を活用した体験学習が数多く生まれ、そこで嬉々として飛び回る子どもたちの姿を見るのが楽しみである。

公民館長 塩澤三佳



平成
21年度

公民館総括

1年間を

振り返って

社会部長 水野耕一郎

本館社会部では、「住みよい環境づくり」を活動方針に掲げ、1年間取り組んでまいりました。

20回目記念となった音楽祭では、「竹音遊び隊」の皆さんによる竹を使った開演イベントが行われ、来場者数も昨年を上回り、大きな盛り上がりを見せました。映画会については、2年ぶりに開催することができ、「アイズエイジ」の上演を行いました。家族揃って来場される方が多く、楽しんで頂けたのではないかと思います。

人形劇場は、いい大人形劇フェスタの広域公演として、人気のある劇団「どむならん」の皆さんにお願ひし、2作品を上映していただきました。巧みな人形の動きに、子どもだけでなく大人まで引き込まれてしまう面白さがあり、大変盛り上がりました。あいさつ運動は、新たに役員青年部、中央小学校PTAの皆さんと合同で実施となり、更なる

広がりができました。今後も、より一層他の団体との共催を目指したいと思ひます。

公民館研究会では、身近な気

候変動について話し合いを行いました。環境の変化をもたらし要因は様々あり、生活と密接に結びついていることも多く、分散会では幅広い意見が出されました。

公民館活動は、様々な立場の方々が集まる絶好の機会であり、住みよい地域づくりのきっかけとなれるよう、今後も充実した活動を行っていききたいと思ひます。



お人形とこんにちは

スポーツを通じた

地域交流

体育部長 塚本 聡

本年度、体育部では二ユースポーツの普及に重点を置き活動して参りました。

昨年度に引き続き「ワンバウンドふらばるバレエ」という競技を少しでも多くの方に体験して頂きたく、夏冬2回のスポーツフェスティバルを通じ、地区公民館の協力を得て多くの方の参加がありました。

冬の大会には一般の方の参加もあり、スポーツを通じ地域の交流が出来たと思ひます。

また、夏のファミリー登山は上片桐公民館との共催で行われました。それに加え、牧之原市の「塩の道ウォーク隊」も加わり、総勢90名近くの参加で盛大に開催する事が出来ました。

駅伝大会では、多くの参加者が見込まれる中、新型インフルエンザが猛威を振るい、一時は大会中止も視野に入れ



駅伝大会スタート

当日を迎えましたが、参加された皆様のご協力により、無事開催に至りました。残念ながら辞退された皆様には来年度また元気に走って頂きたいと思ひます。又、各方面から多くの関係者にご協力頂き、大会をスムーズに運営出来ました事を感謝致します。今後とも変わらぬご協力をよろしくお願ひ致します。

本年度の活動を振り返り、反省点を次年度に活かしながら、子どもからお年寄りまで気軽に出来るスポーツの普及に努めて行きたいと思ひます。

皆様に

支えられて

編集部長 大久保康司

今年度は新たな試みとして、「シリーズ企画」「高齢者介護を考える」を連載しました。

これから松川町でも進むであろう高齢化社会の中での介護を考えるキツカケになればと思ひます。また全体としては写真を多くする事によって見やすく、正確な情報をわかりやすくお伝え出来るよう心がけてきました。

このような新しい事の他に、まつかわ百景や、みんなで仲良く、松川町の文化財、こどもの詩などのおなじみの企画も続けてきました。

これからも部員一同、取材で伺った事を元に、お馴染みの中にも新しい館報を目指して協力していききたいと思ひます。

最後になりますが、取材に御協力いただいた皆様、館報をお読みいただいた皆様、館報にお礼を申し上げます。



企画会議

生 田

大きく広がった 活動の和

生田地区協議会主事

松下 聡

行事のひとつの町民運動会ですが、今回は選手集めが大変だということで、珍幹線リレーと各才別リレーの2種目を行いませんでした。しかし各才別リレーは競技種目の花形でもあるので、盛り上がりには欠けたように感じましたが、これも経験のひとつだと思います。それと開催日ですが、この時期は稲刈りや脱穀などがあり参加者の減少に関係していると思います。

その地区の希望時期に開催できないでしょうか。
もうひとつの行事、芸能文化祭ですが、今年は展示・演芸とも新しい参加がありました。展示の部では、福沢手芸クラブ・長野県夕陽百選「観陽丘」の写真・松川東小学校の自然研究・福与保育園児の絵。演芸の部では、部奈の元気なばあばの皆さん「フレッシュ・バーバーズ」の踊り・松川東小学校の岩原先生のテノール独唱などで会場を盛り上げていただき、楽しい一日を過ごす事ができました。



生田地区町民運動会でのパン食い競争

大 島

充実した 一年をふり返って

大島地区協議会主事

北澤 秀人

大島地区協議会は、上大島・名子・上新井・古町地区の4地区公民館より各地区公民館長、主事（主事補）、各部長および地区協議会長・主事・主事補によって役員構成を行い、各地区館や地区事業の横の連携を深め、公民館活動のいっそうの充実を図ることを目的に運営されています。

本年度も、社会部事業・体育部事業を中心に充実した活動を行うことができました。社会部事業では、大島地区公民館運営研究会を平成21年7月6日（月）に中央公民館大広間で行いました。この研究集会は、公民館関係者を招待し、各地区館での課題を出し合い、問題への取り組みを通して、地についた公民館活動と、地域住民による運営の充実を進めています。

本年度も、社会部事業・体育部事業では、地区協議会最大のイベントである町民運動会。開催日の数ヶ月前から会議や打ち合わせを行い、役員一同一丸となつて頑張りました。当日は素晴らしい晴天にめぐまれ、大勢の町民の皆様にご参加いただき、たいへんにぎやかに開催することができました。また大きなトログラムを終了することができてよかったです。

平成21年度 地区協議会総括

上片桐 インフルエンザに 悩みつつ

上片桐地区協議会主事
牛久保 守

1年とは早いもので、気がつくくと21年度も終わろうとしています。

昨年4月の地区公民館総会を皮切りに、各種事業を展開してきました。
文化的な事業として、上町の大沢治さんを指導者にお願しい「絵手紙講座」を月2回

開催、上片桐商工会及び商栄会との共催による「フェスタぎおん」。その他地域を知るための「歴史めぐり」や、趣味・作品の発表を行う「文化展」の開催などを実施しました。

スポーツ大会では、夏に公式ワナゲと冬に綱引きを北小学校体育館で実施しました。そのほか町民運動会やファミリー登山など、中央公民館との関係事業も実施してきましたが、秋口からのインフル

エンザへの対応で、苦慮した面もありました。それでも各分館の皆さんのご協力により、何とか年度末を迎えることができました。

反省会では、町民運動会の開催日程や、あいさつ運動のあり方、花いっぱい運動の取り組みなど積極的な意見が出されましたので、



上片桐文化祭の展示のようす

これらを来年度につなげ、更に発展した活動となるよう、願ってやみません。

まつかわ大学 第4講座

「心を動かす言葉」

2月13日 町民体育館トレーニングルーム



講師の加賀美幸子氏

今回の講師は千葉市女性センターの加賀美幸子さん。元NHKアナウンサーで、なかなかNHKにチャンネルを合わせる事の少ない私でもお顔を存じ上げているほどの有名人。

「言葉」を操る加賀美さんならではの話しに「言葉は物を考える道具である。だから内に豊かに持たたい。内に持つていけば自分自身と会話できる」とありました。声は音として伝わっても心には伝わらない、とも…。なるほど声は言葉として発しないと伝わらない、つまり豊かな言葉が大切なのだ、と改めて感じました。又、美しい女性（と）は美しい言葉を持っているともいわれ美人女優として有名な山本富士子さんなどを例に出された

が、足元にも寄れない私でも近づきたいと思いました。

年齢をとるといふ事は、だれも同じように実りを手にする事が出来るという事。でもそれを自分で断つ人、年齢をとれず子どもうちに命を終えなければならぬ人などが世界には多くいるそうで、年齢をとる事の当り前さを幸福と感じなければ、と思いました。経験をもとにされた加賀美さんの言葉は、心地よいアルトのひびきと一緒に心に沁み入り、文字どおり心を動かされたのでした。



アルトボイスに耳をかたむけて

2月19日午後1時より、中央公民館大会議室において第4回高齢者講座が開催されました。内容は「劇団赤門」による演芸で、おおよそ70人の受講者が演芸を楽しみました。



大正琴

「劇団赤門」は、現在のシニア大学である老人大学の24期生方24名で平成14年度に結成された団体で、老人ホームや福祉施設などで公演を重ね、今回が176回目の公演だそうです。



おてもやん

今回の公演は、大正琴の演奏で始まり、舞踊、詩吟、曲芸、ハーモニカ演奏、マジック

第4回 高齢者講座

劇団赤門



笑顔がはじける

クなどバラエティにとんだ内容で行われました。大正琴やハーモニカの演奏ではなつかしい名曲を参加者全員で歌い、曲芸の「皿・コマまわし」では見事な芸とともに、軽妙なトークで笑いを誘っていました。また、マジックでは公民館長も飛び入りで参加されて、劇団員の皆さん

とともにマジックを披露しましたが、ネタが見えてしまうハプニングなどもありました。受講者の方達からの拍手や笑い声の絶えない楽しい講座となりました。



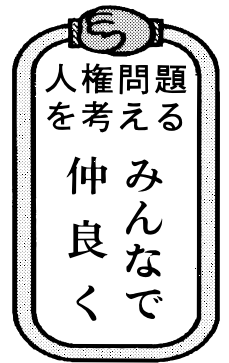
南京玉すだれ



マ〇ケル?



いつもより多くまわしております



人権学習を学んで

松川中2年 宮沢 りら

どうしても人は自分より弱い立場の人をつくりたくなってしまうのだな、と思いました。江戸時代のずっと前から差別はあると思います。今でも身近な所で差別は起きています。本当に、昔やっていた差別はかなりひどいなと思いました。「えた」などの出身だというだけで祭に参加してはいけないとか、みんなが楽しむ為の祭だし、神様を拝むのに差別する必要があるのかな、と思いました。

差別を減らしていく為に、自分の身の周りから差別をなくしていくよう努力したいです。

人権を考える

松川中2年 澤井 美季

部落の人たちは、何か悪いことでもしたのでしょか。また、昔のことを何で今にまで

引きずるのか、私には不思議なことばかりです。

「人間の詩」というビデオの中にもあったように、部落の人々は、相当差別されていたことが分かりました。裁判を起こしても悲しい結果に終わったたり、部落の人に対してはとても厳しく、本当、苦しかったと思います。

また、部落の人々は、仕事や結婚もできなかったのに、今では、働こうと思えば働ける人も働かなかつたり、10代で結婚したりと、とても自由だと思えます。

部落出身だとしても、その人には何も罪はないのに：身元までつきとめて仕事に採用しないことや、結婚の反対など、おかしいんじゃないかと思えます。

今の時代、部落差別はほとんどないと思うけど、いじめやちよつとした差別は、たくさんあると思います。なので、すぐには無理だと思うけど、将来いじめなど一つもないような世の中をつくっていききたいです。

また、まずは自分の身のまわりから、だんだんと広げていけたら良いと思います。

瀬木正孝さんの公演をお聴きして 『廃墟の町を彷徨って』

松川中2年 宮下 苑子

今日の話はビデオで学習したことよりも遙かにすごいものだった。戦争は罪のない命や家族、大切な物や人を一瞬にして、失ってしまうおそろしいものだったんだと改めて感じた。

瀬木さんは話の最後の方で、涙を拭いていた。あれから何十年たっても、何回同じ話をしても、心に受けた傷は一生なくなることはないんだと思つた。これほどつらい記憶なんだ。私たちはその思いをきちんと受け取り、戦争や原爆を「昔話」にしてはいけないんだと強くそう思いました。そのような過去があるから、今の日本、私たちの生活がある、ということをお忘れずに、あたられた命を大切にして生きていきたい。



松川町の文化財

(367) 埋蔵文化財 (265)

大島城(30)

大島城で戦いはなかつた

教育委員会 酒井幸則

文化財シリーズ
二月十四日、伊那郡に侵入した織田軍の先方隊は、坂西・保科氏らが守る飯田城へ迫ったのですが、夜になって城兵は逃亡してしまいました。飯田城に入った織田軍は翌十五日、大島城目指して北へ進みま

た。『信長公記』の翌十五日の記述を現代風に書きなおすと次のようになります。

二月十五日、森勝蔵は三里ばかり駆け出し、市田という所にて逃げ遅れた者を十騎あまり討ちとめた。

信忠は岩村より險難節所を越えて平谷に陣どり、次の日飯田に陣を移した。大島には御敵の日向玄徳齋(大和守)がたて籠もり、物主(城主)である。小原丹後守・武田道遥軒(信玄の弟)・安中七郎らを加勢に加え、大島を守っていた。信忠が馬を寄せたところ、大島城は運を開き難く思い、夜中に敗北した。よつて信忠は大島城に入った。そして河尻与兵衛・毛利河内守を城に置いて、先手は飯島へ陣を移した。

当時、大島の城には武田の重臣日向大和守が在城し、織田

軍の侵攻に備えて信玄の弟の道遥軒(武田信廉)や小原丹後守・安中七郎らが加勢として入っていました。その数は三千人ほどと記録されます。しかしこの大島城も、飯田城が自落したことを聞き、とても敵わないものとして、大島城守備隊も織田軍と戦うことなく、夜中に敗走してしまいました。このため織田軍が大島城に迫ったとき、城はもぬけのからであつたわけです。唯一の戦闘といえば、飯田から大島の間、先方隊の森勝蔵が、飯田から逃げ遅れた武田兵を十騎ばかり討ち取つたことでした。

このように大島城で戦いは全くなかつたのです。後に地方旧記類に記された、大島城兵は華々しく戦つて討ち死にしたとか腹を切つたとかいうことはなかつたのです。『信長公記』は、どんな惨忍なことでも、やつたことは冷静に記していますから、ここに戦いの一字も記されていないということは、それが真実であつたものと思われま

弓道教室の開催について

奨励賞受賞

南信州地域づくり大賞

飯田下伊那地方で、活力ある地域づくりに貢献する個人や団体をたたえる「南信州地域づくり大賞」において、松川町のボランティアアグルー「ノントンの会」が見事奨励賞（下伊那地方事務所長賞）を受賞しました。会員相互の自主活動はもとより、町のブックスタート事業と連携した読み聞



かせ活動や食育相談など、多彩で息の長い活動が評価され、2月19日には飯田合同庁舎で表彰式が開かれました。



ノントンの会の活動概要

活動を始めて10年。幼児をもつ母親や図書館員が中心となって、子どもたちに読み聞かせや紙芝居、寸劇などを行っている。読書活動だけでなく、育児相談や食育相談にも発展。手作りの会報「ノントンだより」は130号に及ぶ。

弓道教室の開催について

近年、生涯スポーツとして弓道の愛好者が増加しています。また青少年健全育成という観点からも、「礼」に始まる武道が注目されています。

何歳からでも始められ、男女の区別もありません。また、かなり高齢になっても続けられます。高校や大学で弓道に親しんでいた方、初めてだけれど始めてみたい方など、是非私たちの仲間になってください。

何時からでも始められます。月・金曜日のいつでも、空いた時間にお越しください。

松川町弓友会 会長 新井陽一

- ◆主催：松川町弓友会
- ◆共催：松川町公民館
- ◆対象者：松川町民、松川町在勤者、学生（中学生以上で保護者の同意書が必要）
- ◆日時：毎週月曜日・金曜日（5月7日より開催）
19：00～21：00
20回にて終了予定
- ◆場所：松川町弓道場（名子地区）
- ◆持ち物：胸にボタンのないシャツ
（町に道具があります）
- ◆費用：スポーツ保険加入代
- ◆申込先：松川町中央公民館
TEL：36-2622
FAX：36-6620
- ◆申込締切：4月30日（金）





飯島町観光協会 写真コンテスト特選受賞 フォトグラファー 加勢春樹さん

仕事柄、上伊那に足を運ぶ 馴染み深い飯島町。毎年応募
ことが多い加勢さんにとって してきたコンテストで、見事



賞品は、温もりあふれる地元産
感激の加勢さんです

特選を受賞さ
れました。
週に一度は
写真仲間と撮
影の旅へ。被
写体との出会
いは「偶然」
にも左右され
ますが、「撮り
たい物がある
所へ行こう」

前向きな行動がいい写真を呼
び寄せてくれるのだそうです。
現在は駒ヶ根でデジカメ初
心者向け講座の指導をしてい
ます。また、仲間と地元食材
を使ったご当地カレーを試作
したり、幅広い活動をされて
います。

今回は自然部門での受賞で
すが、加勢さんの被写体はそ
れだけに留まりません。最近
は劇団やバイオリンにがんば
る子どもたちも撮っています。
目の前で展開される成長過程
が面白く、その1コマ1コマ
を撮り続けたいとのことだ
した。

毎年さまざまな生涯学習事
業を計画、実行している公民
館。年度末にあたり、各地区
の公民館でも来年度の予定を
決める時期がやってきました。

この来年度の構想を練る前
に、今年度の事業

を振り返り、反省
や意見交換をして
来年度の運営に役

立てようと、上片桐地区公民
館では運営研究集会を2月14
日に改善センターで開催しま
した。地区公民館長をはじめ、
主事、各分館の社会部や体育
部のみなさんなどが参加し、

す ぽっと

上片桐地区公民館運営研究集会

平成21年度に行われた事業に
ついて、感想や指摘、要望が
出されました。

上片桐地区公民館では花
いっばい運動に力を入れ、毎
年行ってきましたが、公民

館だけでなく、各種団体や一
般の人たちにも参加してもらっ
てきています。しかし最近

参加者の偏りや植えた後の管
理など問題点もあり、方針を
考え直す必要性もでてきたと

いうことです。また、上片桐
地区の公民館部員に女性がい
ないことにも触れました。

「部員に女性が参加してもら
えると良い」「女性の力があつ
たらもつとよいものになった
と感ずることが

あった」など、
みなさんが活動
の中で感じたこ

とが話し合われました。
社会部、体育部などに分か
れた分科会や全体発表などで
多くの意見が出され、時間が
足りないほど熱心な話し合い
が行われていました。

こころの詩

チョコレートケーキ
北小1年 白さわか
おかあさんといっしょに
チョコレートケーキを
つくったよ

チョコをバリバリわって
ボールの中でとかして
おさとうとこなを
ぐるぐるまぜて
かたにながして
オーブンでこんがり
やきました

きじはふわふわ
チョコはトロトロ
とってもおいしかったよ
またじょうずに
つくってみたいな

ともだちの
たんじょう日

北小1年 よね村しおん

もうすぐともだちの
たんじょう日。
プレゼントに
なにをもっていけば
いいのかな。

おかあさんや
ほかのともだちにきいてみて、
わたしは、
わたしがもってるのと
おんなじの
くまのぬいぐるみをあげた。

ともだちは、すこしく
うれしそうに、
「ありがとね。」
っていつてくれた。
わたしも、よろこんでくれて
うれしかったよ。

俳句

花明り

西澤清子(中荒町)
平穩を追儼に託す峽の星

春風の真中に弾むランドセル

それぞれに自己主張して花明り

日溜りに風のほどけてクロッカス

春の闇日付変更線を越ゆ

短歌

ハーモニカ

湯澤順子(増野)

真顔してハーモニカを吹く父の眼の
輝きこそは童そのまま

中国の留学生と働けり

笑顔で語る確かな目標

女関に大き蛙の居座りて

家族のごとく我を迎える

我が夫の若き写真を見つけたり

亡き義母のバッグに宝のごとく

「てをあわせましょう いただきます」と

幼のリードで弾む食卓



町の古民具 ⑤ 「わらぐつ」

一般的な防寒用ではなく、味噌作りに使用したくつ。桶の味噌玉を踏み込むときにはいた。



ぼくは、カワセミやヤマセミやおオタカを見られるか、期待していました。

午後には外に出て台城公園で双眼鏡を使ってバードウォッチングをしました。

ぼくは、初めてバードウォッチングに参加しました。午前中には、中で鳥の見分け方やどんな鳥が見られるかなどいろいろなることを勉強しました。鳥の見分け方は、『嘴の色や体の色、体の大きさなどを覚えて図鑑を使って捜そう!!』ということを教えてくれたりしてよく分かりました。

また鳥の名前も覚えたいです。

いろいろな所を歩いたりしていろいろな鳥がいました。トビやヒヨドリなどがいました。カワセミやヤマセミやおオタカがいるスポットに行つたけどいませんでした。期待していた鳥が見られなかったからとてもごんねんでした。でもハイタカやチヨウゲンボウなどのカッコイイ鳥がいたり、あまり見たことのないダイサギやカワウやカワアサイなどがいてとても楽しかったです。

声

御柱の曳き綱造りと想い

中荒町自治会長 白田 繁

享保7年江戸中期より300年弱。長い歴史のある御射山神社の御柱。この御柱の曳き綱を造るのが片桐町耕地の皆さんで、私の知る限り代々引き継いできたと思われま。

今年行われる御射山神社御柱の縄打ちが2月28日に盛大に行われました。木遣りの音頭の下、片桐町耕地の皆さん約200名が協力し合い、勇壮で綺麗な曳き綱を造ることが出来ました。曳き綱には先端に蛇頭



力を合わせて!

が付き、曳行する人々の安全を見守るかのように造られています。完成した綱は、獅子の舞



蛇頭

と木遣りに送られながら、御射山神社に奉納されました。協力し合い楽しんで造つたこの精神は、これからも各自治会の中で生きていくのではと思っています。

楽しかったバードウォッチング

北小学校6年 宮澤 数馬



祭当日まで静かに待ちます

ゴミ草

前のべんべん草で私の事務所で行っている地域ボランティア(事務所周辺のゴミ拾い)について書きましたが、今年、職場の研修会で事例発表ということで寸劇という形で発表しました。

劇はちよつといやでしたが、今までは「ゴミ拾いがいやなわけはないのですが、朝少し早く行くのが面倒くさかったり忘れてしまつたりもしていましたが、発表したんだから行かなくちゃと自分言ひ聞かせることも出来、皆に知ってもらうのはもちろん自分にとっても発表も少しはよかつたかなと思ひます。

この原稿を書いている今朝もちよつとボランティアの日でしたが、道に落ちていたゴミ、つまりポイ捨ては減りません。特に今朝はタバコの吸殻はもちろん、飴などの袋が多く「今日はお菓子のゴミが多いよね。」と言ひながら拾ひました。「ゴミを減らすことは大変なことですが、せめてポイ捨てがなくなり「今日はゴミがほとんどなかつたね。」と言ひながらボランティアが出来ると言ひたいなと思ひます。(宮崎亜希子)

公民館報 「まつかわ」 第 557 号 平成22年3月15日

発行所 松川町公民館 三佳
責任者 塩澤 公民館編集部
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)